

めぐみイエス・キリスト教会

2026年3月8日(日)第二主日礼拝

午前10時より

週報「通算第798号」



2026年標題聖句

ヨハネの福音書14章1節～2節

《「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、また私を信じなさい。私の父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、私は場所を備えに行くのです。」(新改訳第Ⅱ版)》

礼拝 毎週日曜日 午前10時～11時

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌233「驚くばかりの」	p. 354
【交読文】	No.5 詩篇第19篇	p. 882
【賛美Ⅱ】	新聖歌340「救い主イエスと」	p. 540
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【前回説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲「私の十字架」	
【聖書朗読】	ルカの福音書12章35節～40節	
【礼拝説教】	「思いがけない時に」	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

※本日の聖書箇所(ルカ伝12章35節～40節 新約p.142下段)

12:35「腰に帯を締め、明かりをともしていなさい。

12:36 主人が婚礼から帰って来て戸をたたいたら、すぐに戸を開けようと、その帰りを待っている人たちのようでありなさい。

12:37 帰って来た主人に、目を覚ましているのを見てもらえるしもべたちは幸いです。まことに、あなたがたに言います。主人のほうで帯を締め、そのしもべたちを食卓に着かせ側に来て給仕してくれます。

12:38 主人が真夜中に帰って来ても、夜明けに帰って来ても、そのようにしているのを見てもらえるなら、そのしもべたちは幸いです。

12:39 このことを知っておきなさい。もしも家の主人が、泥棒の来る時間を知っていたら、自分の家に押し入るのを許さないでしょう。

12:40 あなたがたも用心していなさい。人の子は、思いがけない時に来るのです。」

●ポイント1. 「明かりをともしていなさい」とは？

※マタイの福音書5章14節～16節「山上の垂訓」 (新約p.7上段)

5:14 「あなたがたは世の光です。山の上にある町は隠れることができません。

5:15 また、明かりをともして升の下に置いたりしません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいるすべての人を照らします。

5:16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです。」

●ポイント2. 「目を覚ましていなさい」とは？

※マタイの福音書26章40節～41節「ゲッセマネの園」(新約p.57下段)

26:40 それから、イエスは弟子たちのところに戻って来て、彼らが眠っているのを見、ペテロに言われた。「あなたがたはこのように、一時間でも、私とともに目を覚ましていられなかったのですか。

26:41 誘惑に陥らないように、目を覚まして祈っていなさい。霊は燃えていても肉は弱いのです。」

●ポイント3. 「思いがけない時」とは？

※マタイの福音書24章36節～39節「ノアの日と同じ」(新約p.52上段)

24:36 「ただし、その日、その時がいつなのかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。

24:37 人の子の到来はノアの日と同じように実現するのです。

24:38 洪水前の日々にはノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていました。

24:39 洪水が来て、すべての人をさらってしまうまで、彼らには分かりませんでした。人の子の到来もそのように実現するのです。」

◎先週のメッセージ【あなたがたの宝は】

《私たちは、誰もが自分にとって「宝物」と言える物を持っています。しかし、それは神様が与えて下さったものだと言うことです。私たちが、この世という世界において、喜び、感謝し、また楽しむことを許して下さる神様の恵みであることを、決して忘れてはならないのです。

マタイの福音書における平行記事では、「自分の財産を売って施しなさい」という言葉を、主イエス様は言われていません。よって、「宝を天にたくわえる」ことが、主が言われる本意であることが分かります。

それでは、「天に宝を積む」こととは、具体的にはどのようなことなのでしょう。まず献金です。礼拝献金、十分の一献金、集会献金、感謝献金、特定献金などはすべて、天に宝を蓄えることになります。

また、友人にプレゼントしたり、分けあったり、ご馳走したりすることも、天に蓄えることになるのです。しかし、お金だけではありません。時間もそうなのです。神様の為に、また友人をもてなす為に使われた時間も、天に蓄えられる宝であると、私は確信しています。

所で、神様にとって、宝とは何なのかを考えて見たいと思います。『あなたは、あなたの神、主の聖なる民だからである。主は地の面のあらゆる民の中からあなたを選んで、ご自分の宝の民とされた。』と、申命記には書かれています。これは、イスラエルに言われた言葉ですが、霊的イスラエルである私たちにも向けて語られてもいます。私たち一人一人は、神様にとって、大切な大切な宝物なのです。それだからこそ、神様はやがて、私たちと言う宝を天に蓄えられるのです。それが携挙です。その時、私たちは、地上の住まいにあったすべての物を置いて行くことになります。私たちは、何一つ、天に持って行くことは出来ません。そして、私たちの真の宝物は、「永遠のいのち」なのです。この宝物に勝るものは何一つありません。私たちは、この宝物をしっかりと握りしめていなければならないのです。》

◎お知らせ

※第3主日礼拝は、2026年3月15日(日)午前10時から行ないます。